

# えんがわ通信



第26号 2014年2月

発行＊一般社団法人パーソナルサポートセンター  
 住所／仙台市青葉区二日町6-6 シャンポール青葉2階  
 電話／022-399-9662 FAX／022-224-1621  
 MAIL／contact@personal-support.org  
 WEB／http://www.personal-support.org/

## 一番のふるさと、来れば何かがある・・・ 「えんがわ」の利用者が語る思い出

## えんがわの輪



### Interview

働きたい人と  
実習生の受け入れを  
今後も積極的に  
展開したい。

あなたの街の三河やさん  
代表理事  
北村 佳子 さん

「三河やさんの事業内容について教えてください。法人の設立当初、法律や制度の狭間を埋めよう

NPO法人「あなたの街の三河やさん」(仙台市太白区)で、PSCの男性実習生がこのほど「職業体験実習」に取り組みました。同法人の「御用聞きサービス」を通じて、引越し作業などに意欲的に取り組むことができたようです。実習の時の様子の北村佳子さんに話を伺いました。(聞き手は就労支援課 中島ゆき子)

「三河やさんの事業内容について教えてください。法人の設立当初、法律や制度の狭間を埋めよう

と、買い物代行などの「御用聞きサービス」を始めました。そうした中で、障害のある方たちに出会ったとき、何に困っているのか聞いたところ、「働けない、働きたい」という答えが返ってきたんです。そこで、就労移行支援と就労継続支援B型の事業を始め、いまは、障害者の仕事として、地域の方々のお手伝いをさせてもらっています。

「今回の実習生受け入れの経緯を教えてください。実習生に会ってみて、たぶん社会にあまり出た経験が少ない人なのかな、

と、思ったんですね。私たちの取り組んでいる事業を体験して、今後のために役立ててもらえれば、と思って受け入れることにしました。

「三河やさんの事業内容について教えてください。法人の設立当初、法律や制度の狭間を埋めよう

「実習の様子はいかがでしたか？」  
引越し作業などを手際よく、やっていただきました。あいさつも話方も、ハキハキしていてとても良かったです。一生懸命やらなくてはいけません、という気持ちが先走ってか、早とちりをすることもありました。お年寄りでも障害のある子たちでも、分け隔てなく親身に、接してくれま

「三河やさんの事業内容について教えてください。法人の設立当初、法律や制度の狭間を埋めよう

なので、(実習期間中に)みんなで、お茶を飲んだりしながら、おしゃべりをする時間も作るようにしています。

「三河やさんの事業内容について教えてください。法人の設立当初、法律や制度の狭間を埋めよう

三河やの新しい事業として、2月1日に太白区青山にグループホームがオープンしました。すでに(実習生に)体験をしてもらっています。資格や経験がなくても支援員として、体験してもらえます。今後も、積極的に受け入れていきたいと思っています。



「浜にいたらできなかった体験をさせてもらい、すごく楽しかった」と話すのは、青葉区内のみなし仮設住宅に住む**安藤光子さん(67)**。本通信を見て、封入に参加したことをきっかけに、料理教室や美化プロジェクトなどのイベントに参加するようになったのだという。

中でも、安藤さんが思い出に残っているのは、宮城大の文化祭。「えんがわ」で知り合った友人とともに、キャンパス内をまわり、食べ歩きをしたり、餅まきを拾ったりするのが楽しかったという。

「いまでは一番のふるさとになった」と話すのは、泉区内のみなし仮設住宅に住む**佐々木英子さん(74)**。道に迷いながら「えんがわ」を訪れた時、スタッフと知り合い、その後、封入作業に参加。以来、多くのイベントに顔を出した。「お誘いの電話が来ると、すぐカレンダーに○をつけるくらい、テンションが上がりました」。

「何よりの楽しみだった」と振り返る。同じ仮設住宅に住む**真壁真さん(85)**は「えんがわ」の料理教室に参加。「それまでは仕事ばかりで、包丁を持つこともなかった。料理をしてみても、家庭を守る女性の気持ちがあった」と話す。周囲の女性から、レシピを教えることもあったという。

宮城野区のみなし仮設住宅に住む**菅原みち子さん(54)**は、夫を亡くした後、震災に遭い、落ち込んでいた中、「えんがわ」を訪れ「救われた気がする」という。「えんがわ」は、わたしにとって、大切な場所でした」と話す。

太白区あすと長町にある「コミュニティ・ワークサロン「えんがわ」」が3月末で幕を閉じる。2011年秋にオープンした同施設では、これまで、さまざまなプログラムが行われ、4900人超が利用した。今回は、利用者の方々の「思い出」に触れてみたい。

### 農業体験記



先日、冷たい風が吹き荒れる中、小松菜や大根、ネギを収穫しました。収穫後には、みんなで水をかけ、鮮度を保つ作業に汗を流しました。水の冷たさで手はかじかみ、大変でしたが、その分、おいしい野菜を無事に、みなさんのものに届けることができたのが、何にも代えがたい喜びとなりました。

